

創造・参加・実践
No.763

最新のJR西労組運動をチェックしよう!
JR西労組HP (http://www.jrw-union.gr.jp)



「友だち追加」から「ID検索」または「QRコード」で登録!
@dzc0159s



西日本旅客鉄道労働組合

〒530-0012 大阪市北区芝田2丁目1番18号
西阪急ビル9階
TEL 06-6375-9869(代)
FAX 06-6373-4133

発行責任者 上村 良成
編集責任者 尾崎 裕介

2025春闘妥結

ベースアップ12,200円・年間臨給5.3箇月 エリア手当 金沢・福知山・米子3%へ 間接・医療に新たな手当新設・ ブリーチャー・リファラル採用一時金導入 勤務単位の職務手当ML層への支給拡大



中央闘争委員会は、3月11日(火)に2025春闘の最終交渉に臨み、会社から回答提示を受けた。
会社は「当社グループが将来にわたり持続的進化を果たしていくためには、更なる安全性向上や生産性向上を図り、より高い価値創造に取り組む必要がある」と、これらの積み重ねが社員の待遇改善に繋がる」とし、賃金では、過去最高となるベースアップ12,200円をはじめ、年間臨給5.3箇月、エリア手当3%への改訂。総合生活改善では、間接・医療部門への手当新設、職務手当のML層への支給拡大など、手当・福利厚生働き方など幅広く改善が図られた。
中央闘争委員会は、「会社発給以降、最高額のベースアップであり、基準昇給を含め6%の賃金引上げは会社として大きな決断として受け止める。エリア手当に関して当該地本の切実な声を受け止めたと考える。現状の物価高を受け止め、契約シニアを含めた全社員に寄り添い、そしてコロナ禍を乗り越えた今日までの組合員の労苦に応え、人財への投資を成長投資と位置付ける会社の姿勢を示したものと判断し、妥結した。」
325枚の配布と1,245枚のフォトモザイクをはじめ、積極的な参画で中央闘争委員会を最後まで精力的に支えていただいた全ての組合員とその家族の皆様へ感謝する。

2025春季生活闘争妥結にあたっての 中央闘争委員会見解

中央闘争委員会は、3月11日に2025春季生活闘争の最終交渉に臨み、基準昇給の完全実施、JR西労組発足以来過去最高となるベースアップ12,200円(シニア・シニアリーダー・グランドシニア社員を含む)、契約社員の時給75円引上げ、年間臨給5.3箇月分、金沢支社・旧福知山支社・旧米子支社エリアのエリア手当を3%に引き上げ、ML層への勤務単位の職務手当の支給拡大、課長代理手当の新設、認定看護師をはじめとする高度な資格を保有する者への手当の新設、期末手当の成績給の拡大、通勤手当の支払い上限額の引上げ、ブリーチャーの導入、社会人採用に対するリファラル採用一時金の新設、社員持株会の奨励金の増額、奨学金返還支援制度の導入、同居家族へのインフルエンザ予防接種費用補助の給付新設、別居手当の支給要件の緩和、帰省等交通費の要件緩和等、私たちの要求に幅広く応える回答を引き出した。この回答は、契約社員、シニア・シニアリーダー社員を含めた全ての社員に寄り添い、コロナ禍を乗り越えた今日までの組合員の労苦に応え、人財投資を成長投資と位置付ける会社の姿勢をあらためて示したものであると判断し、本日妥結した。

JR西日本の経営状況は、1月31日に発表された2024年度第3四半期決算では、ご利用の回復や北陸新幹線の敦賀延伸効果等により営業収益は前年同期比106.2%の7,524億円、営業利益は前年同期比110.2%の1,375億円と、4期連続の増収増益となった一方、通期見通しは概ね想定範囲で推移していることから11月1日公表の予想を据え置いた。今年は大阪・関西万博や広島新駅ビル「ミナモア」の開業、新たな決済サービス「We smo!」のサービス開始もあり、アップデートした中計目標は達成できる見通しである。

2025春季生活闘争は、2024春季生活闘争で勝ち取った賃上げの勢いを止める事なく、「もっと賃上げ 人財への投資を!」を春闘スローガンに、未来を見据えたさらなる「人財への投資」を成長投資として求め、交渉に臨んだ。要求として年度初の基準昇給の実施、ベース15,000円、年間臨給5.7箇月、職務手当の改善、手当の増額や新設、柔軟な働き方等の要求を掲げ、精力的に交渉を積み重ね、1人でも困った組合員がいれば手を差し伸べるべく切実な組合員の声を訴えてきた。また、物価上昇等により組合員の実質賃金は減少する中、組合員の生活は厳しく、2024春季生活闘争で光が当たらなかった間接部

門や医療職等の改善、ML層の働きがいの向上が必要不可欠であると強く主張してきた。

こうした私たちの強い訴えに対して、会社は最終回答で『日々安全性向上等に取り組み、高い使命感を持って業務に精励いただいている社員皆さんに、心から感謝を申し上げる。今回の回答は、営業利益がコロナ禍前の水準に届いていないうえ、来年度においても持続可能な運営に向けた環境整備に向け、大幅な費用の増加が見込まれ、今後ますます深刻化する労働力不足やインフレ等は大きな脅威であり、経営状況は決して楽観視できる状況ではない。このような状況の中、当社グループが将来にわたり持続的進化を果たしていくためには、更なる安全性向上や生産性向上など、より高い価値創造に取り組んでいく必要がある。これらの積み重ねが社員の皆さんの待遇改善にも繋がっていく』との考えを示した。

今回の回答は、ご利用がコロナ禍前の90%程度、営業利益は85%程度の水準にとどまり、次年度以降も大幅な費用の増加が見込まれて、運賃改定も容易に実施できない中において、「ベースアップ12,200円」は、まさに会社が私たちが訴え続けた人財への投資を成長投資としてとらえた結果だと言える。この成果は、連合の上位目標ベア4%、そしてJR連合統一要求12,000円以上を超え、ベアにこだわった私たちの思いに応えた回答である。要求額の15,000円には満たないが、「基準昇給、エリア手当を含めたベースアップと諸手当の改善額の合計の一人当たりの平均の賃上げ額は19,293円、平均賃上げ率6.01%」となり、会社として大きな決断をしたと受け止める。年間臨給5.3箇月については、昨年を上回るものの、要求額に及んでいない。しかしながら、ベースアップにこだわり、エリア手当の改善などを引き出したことを踏まえれば、会社としての精一杯の回答であったと受け止める。また、諸手当等の改善については、今日まで私たちが求めてきた内容や働き方を数多く実現したものであり、人財の確保、定着に大きく寄与するものと判断する。

最後に、今春季生活闘争も徹底的な参画やフォトモザイクなどへの積極的な参画により、中央闘争委員会を最後まで精力的に支えていただいたすべての組合員と家族の皆様へ心より感謝申し上げます。

今後も「安全」を基礎に、JR産業の魅力を高め、人財の確保および定着と成長ができる会社にしていく決意を明らかにし、2025春季生活闘争妥結にあたっての中央闘争委員会の見解とする。

2025年3月11日

西日本旅客鉄道労働組合(JR西労組)
2025春季生活闘争中央闘争委員会

【賃金関係妥結項目】

実施日：2025年4月1日

<社員>

- 基準昇給の年度初の実施
- 全社員のベースアップ12,200円
- エリア手当の見直し
⇒ 金沢支社・旧福知山支社エリア・旧米子支社エリアを3%
- 年間臨給5.3箇月

<シニア・シニアリーダー社員等>

- シニア基本給に12,200円加算
(ハーフ勤務は、7,320円加算)

<契約社員>

- 基本賃金(時間額)に75円加算

【総合生活改善関係妥結項目】

- ◎ 勤務単位の職務手当のML層への拡大 (実施日：2025年4月1日)
- ◎ 間接部門社員等への職務手当の新設 (実施日：2025年4月1日 ※課長代理は6月1日)
⇒ 課長代理 5,000円・情報処理技術者 10,000円
認定看護師 5,000円 など
- ◎ 期末手当の成績給(増額)の追加 (実施日：2025年の年末手当)
⇒ 「勤務成績が特に優秀な者」の成績給(増額)に+20万円と+30万円を追加
- ◎ 奨学金返済支援制度の新設 (実施日：2025年10月以降)
⇒ 年間上限50,000円
入社後最長10年(2016年4月1日入社以降が対象)
- ◎ 通勤手当の見直し(他社特急上限額) (実施日：2025年6月1日)
⇒ 他社特急通勤の上限額を15万円(月額)に変更
- ◎ ブリーチャーの導入 (実施日：2025年4月1日)
⇒ 出張の機会に余暇を楽しむ働き方(海外も可能)
- ◎ リファラル採用一時金の新設 (実施日：2025年10月1日)
⇒ 社会人採用を対象に、知人を紹介し入社後6ヶ月経過で50,000円
- ◎ 社員持株会奨励金の引上げ (実施日：2025年7月1日)
⇒ 右表に加え、3年以上継続保有の場合は3%

持株会奨励金	現行	改正
~1万円未満	5%	10%
1~2万円未満	6%	11%
2万円~	7%	12%

~その他の口頭説明項目~

- 資格取得一時金制度の対象に医療関係資格などを追加 (2025年4月1日から適用)
- 別居手当の支払い要件の見直し(2025年4月1日より施行)
- 旅費に関する取扱いの見直し(2025年4月1日以降適用)

※妥結内容の詳細は、「業務速報」「JR西労組ニュース」を参照してください